# 内部エネルギー U

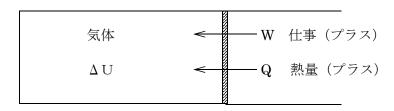
物質や場のもつエネルギーからそれらの全体としての運動に関する運動エネルギーを 引いた残りの部分。内部エネルギーは、系の状態によって定まる1つの状態量。

$$\begin{array}{ccc} \Delta & U = J Q' \text{ (cal)} + W \\ &= Q_{(J)} + W_{(J)} \end{array}$$

**Δ** U:内部エネルギーの増加分 Q':cal(カロリー)単位の熱量

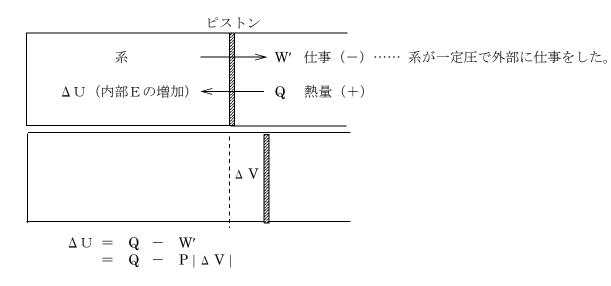
J : 熱の仕事当量(4.1855 =) 4.2 J/cal

W:仕事……外部から系(気体)に対しての仕事

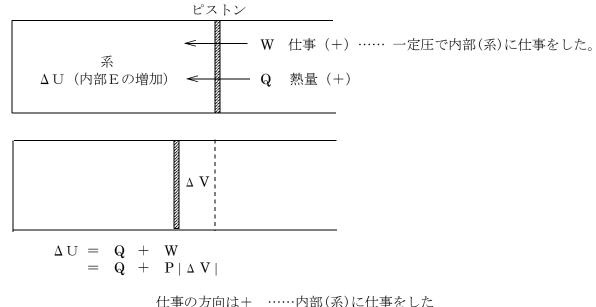


熱力学第一法則……内部エネルギー変化 $\Delta$  U は、系が得た熱量Qと、系に可逆的になされた仕事W の和(または差)で表される。

## 一定圧で外部に仕事をした場合



#### 一定圧で内部に仕事をした場合



エンタルピー変化 ( $\Delta$ H) と内部エネルギー変化 ( $\Delta$ U) と仕事W (PV) の関係

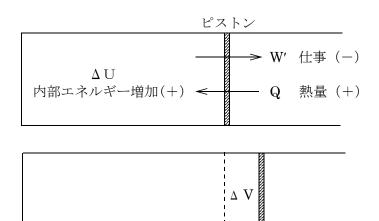
あるいは、 H=U+PV で、Pは定数だから  $\Delta H=\Delta U+P\cdot\Delta V$ 

$$\Delta H = \Delta U + P\Delta V$$
 (定圧) .....①

定圧の開放系での物質変化は、体積変化と同時に外界との間でエネルギーのやり取りを行う。

# 反応熱 Q とエンタルピー変化 Δ H の関係





Q は定圧反応熱だから QP とすると  $\Delta$ U 内部エネルギー変化(増加)は

$$\Delta \, \mathrm{U} \, = \, \mathrm{Q}_{\mathrm{P}} \, - \, \mathrm{P} \, \Delta \, \mathrm{V} \, \cdots \, \mathrm{2}$$
 (定圧状態の系)

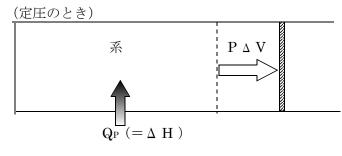
エンタルピー変化ΔHは、

$$\Delta H = \Delta U + P \Delta V$$
  $\leftarrow$  ①より  $= (Q_P - P \Delta V) + P \Delta V$   $\leftarrow$  ②を代入  $= Q_P$ 

$$Q_P = \Delta H$$
 ..... 3

別解

$$\Delta U = Q_P - P \Delta V \leftarrow ② より$$
 $U_2 - U_1 = Q_P - P (V_2 - V_1)$ 
 $\therefore Q_P = (U_2 + PV_2) - (U_1 + PV_1)$ 
 $= H_2 - H_1 \leftarrow x y y v v v - o c c 義 より$ 
 $= \Delta H$ 





(参考)

定積状態の系では

$$\Delta V = 0$$
 だから  $\Delta U = Q - P \Delta V$   $= Q$ 

Q は定積反応熱だから Qv とすると ,  $\Delta$  U は

$$\Delta U = Qv$$
 (  $Qv : 定積反応熱$  )

## 内部エネルギー U とモル比熱 C (cal/K·mol)

$$C = \frac{Q}{\Delta T} \cdots \odot$$

モル比熱C (cal/K·mol) ……物質1 mol の温度を1 K上昇させるのに要する熱量モル比熱を、熱容量と表現している場合もある。

$$\Delta U = J Q'$$
 (cal)  $+ W$  ..... 4)

$$Q' = \frac{1}{J} (\Delta U - W) = \frac{1}{J} \{\Delta U - P (-\Delta V)\}$$
$$= \frac{1}{J} (\Delta U + P \Delta V)$$

⑤に代入して

体積を一定( $\Delta$  V = 0)に保って、温度を上げるときのモル比熱が 定積モル比熱  $\mathbb{C}_{v}$  である。

$$C_{V} = \frac{1}{J} \frac{\Delta U}{\Delta T} \cdots ?$$

圧力を一定( $\Delta$  P = 0)に保って、温度を上げるときのモル比熱が 定圧モル比熱  $\mathbb{C}$  P である。  $\mathbb{O}$   $\mathbb{C}$   $\mathbb{C}$ 

$$C_P = \frac{1}{J} \left( \frac{\Delta U}{\Delta T} + P \frac{\Delta V}{\Delta T} \right)$$
 ……⑥´ (Pは一定)

$$= C_{V} + \frac{1}{J} \cdot P \cdot \frac{\Delta V}{\Delta T} \quad \cdots \cdot \cdot \cdot \cdot \cdot \cdot \otimes$$

1 モルの気体で、圧力は一定・温度が $\Delta T$  (K) 上昇したとき、体積は $\Delta V$  変化したとする。

$$PV = RT \cdots a$$
  
 $P(V + \Delta V) = R(T + \Delta T) \cdots b$ 

a、bより

$$P \Delta V = R \Delta T$$

$$\therefore$$
  $P \frac{\Delta V}{\Delta T} = R$  これを $\$$ に代入して

$$C_P = C_V + \frac{R}{J}$$
 .....

CP, Cvの単位を (J/K·mol) とすると、⑨式は、

$$C_P - C_V = R$$
 となる。